

ひとりひとりを育てる児童指導の実践的研究

～バウムテストによる児童理解～

足利市立三重小学校 齋藤ユキ子 小林きみ子 大沢政子

池田 フミ 岡 典子 慶野貞子

はじめに

昨年4月、市教委から児童指導についての研究学校の指導を受け、全職員あげて児童指導研究にとりくんできた。本研究はその第1年度を終えるにあたって、第1班の研究の一端を紹介し次年の研究の礎石とするものであります。

はじめに研究経過の概要を略記し、本研究の背景を御理解いただくための一助としたいと思います。児童指導の研究をすすめるにあたって、先ず最初、何を手がかりに研究にとりくんだらよいか、どんなテーマを設定したらよいかということから、まずは現実を直視し、日常の指導の中でもとすれば見落としがちな児童の問題行動をほりさげ、それらの問題を究明していく過程において

- ・ 児童指導とは何か
- ・ 児童指導における教師のあるべき姿

を実践を通して解明していくことにした。

常日ごろ、気にはしているが、つい見過ごしてしまったり、あきらめ、投げやりになっている問題から、すぐにも解決をせまられている問題まで、問題はさまざまであった。それらの問題を意図的にほりさげ、列記してみた。それらの問題を委員会で整理し、次のように分類した。(具体的内容については末尾に附記)

- 1 性格、能力に関する問題……性格、能力(31)
- 2 生活行動に関する問題……生活行動、基本的生活習慣(51)
- 3 学習に関する問題……学習態度、学習不振、学習意欲(11)
- 4 その他に関する問題……指導法、親の問題(8)

この分類にしたがって研究班を編成し、それぞれ別別に課題を設定し、課題を総括して研究テーマを設定した。本研究は第一班の“性格や能力に問題のある子の指導はどうしたらよいか”という研究課題のもとにとりくんできた研究の一端であり、研究も未だ半ばにして意をつくし得ないが、これまでの研究を整理、確認するつもりで投稿してみることにした。

以下バウムテストを中心に児童理解のための性格検査研究の一端を報告し、諸氏の御指導、御批判をいただきたいと思ひます。

児童理解の一方法としての性格検査の研究 —バウムテストの実践的研究—

<性格検査としてバウムテストをとりあげた理由>

- 1 児童理解の方法として主観的理解、客観的理解、共感的理解があり、それらの長所をじゅうぶん留意しながら児童理解に努めることが大切である。
- 2 ここでは、教師の主観的理解をさらに正確にし、信頼性あるものとするため、客観テストを中心とした研究をすすめた。

- 3 客観テストの中で質問紙法をとりあげず、投影法的テストをとりあげた理由として、
- ① 質問紙法は、子ども個人の内省を中心とした選択しを組み合わせるため、小学校1~2年生には内省する能力が発達していないので信頼性のあるデータとはなり得ない。
 - ② そこで、子どもの心理状態や性格を年齢によらず診断しうるものとして、バウムテストをとり上げてみた。
- 4 投影法の中で、特にバウムテストをとりあげた理由として、
- ・ 投影法の中には文章完成法や描画テスト、色彩診断、TAT、CAT、ロールシャッハテスト等いろいろあるが、どの子どもも興味を示し、すぐにでも描けるバウムテストがよいと考えた。
- 5 バウムテストを実施してみれば、必ず子どもの内面的な理解とその手がかりがつかめるのではなかろうかと考えた。

<バウムテストとは>

投影法の一つに分類されているテストであり、1949年にコッホがドイツ語で「バウムテストー精神診断学的補助手段として樹木画テスト」として公開した。

1 歴史的背景

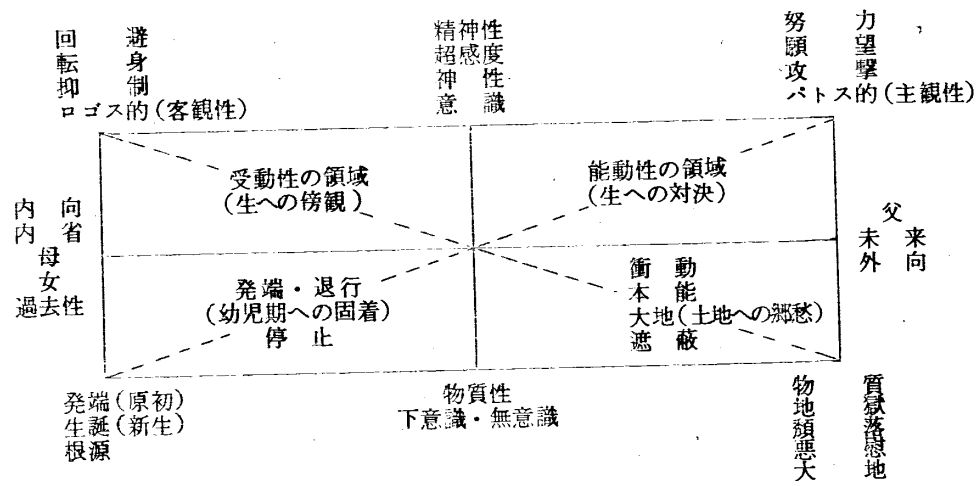
スイスには、古くから職業適性診断の専門家があり、樹木画を用いた。のちにヨーロッパ文化圏に広く普及し、フランス、イタリア、デンマーク、ポルトガルなど、各国の研究誌に掲載され、わが国でも1960年ごろから国吉政一らによって研究がはじめられた。

コッホがこのテストを公開する前にも、職業コンサルタント、産業心理学者、スクール、サイコロジスト、教育コンサルタント、教育者、精神科医に用いられており、職業適性の検討や、教育相談の補助として有効であるということが認められている。

2 理論的背景

・ 第1にバルパーの筆跡学における左右、上下、前後という考え方を含む領域理論とグリェンワルドの「置きテスト」の結果から示唆された空間象徴理論に基づく“十字の象徴”である。

グリェンワルドの空間図式



- ・第2に、発達理論に関するもので発達の面からの形態の観点である。かかれた樹木の形態を中心にみると、年齢の発達とともに樹木のかき方が変化するのに気づく。コッホのドイツ語の原書には図表を掲げて詳細に説明されており、我が国の児童でも同様の発達の变化が認められる
- ・第3には、第1と同様、筆跡学的観点を導入しての、主として動態の観点である。筆跡学の成果は、そのままbaumテストに適用できないが、運筆の動態分析により性格をよみとることができるとするものである。

＜実施方法＞

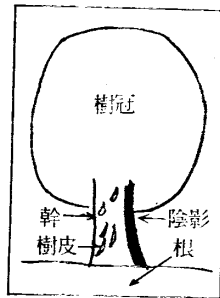
検査者に白い画用紙と柔らかい鉛筆(4Bがよい)、消しごみを与え、「実のなる木を1本かきなさい」と教示するだけでよい。集団でも実施可能だが、できれば個別的に実施し行動を観察するのがよい。かいた木が不明確だったり、非常に不自然だったり、じゅうぶんできあがっていないとき、もっと他の点や他の層について検討したい時は必要に応じて2回以上テストをくり返してもよい。その場合の教示は、「前にかいたのとはちがった実のなる木をもう一度かいてください」という。

＜解釈について＞

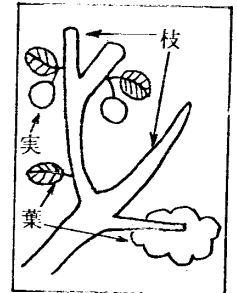
群馬県教育研究所 連盟双書第28集……参考

1つの樹木画は、いくつかの部分からなりたっている。そして、それらの部分は下記のような意味を表す。

- 根……………無意識、深層
- 幹……………養育過程、成長力
目ざす方向
- 枝……………外界との接触
- 樹冠……………自己の存在の場
- 実……………結果、目標



P7 (図5)



P7 (図6)

分析の例

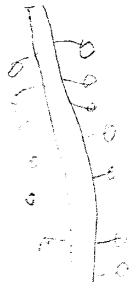
分析項目	性格特性	欲求、圧力	問題傾向
空間的位置 ・上、左 ・中心より左	・新任職を避ける ・内面的・用心深い	・進行 ・情緒不安定	・不安感 ・非協力的
筆圧 ・強い	・積極的	・自己主張	・鬱鬱
根 ・爪のような根	・現実接触	・現実接触	・疑心易感性
根もと ・根のはしから 	・知識経験の狭さ		・10才以上は珍重
樹幹の外形 ・短いストローク 断片的樹幹 	・衝動的 ・興奮性	・自己不確実感 ・不安感	・神経症 ・おちつきなし
樹皮 ・右側に影 ・樹冠部が袋のように幹にかぶさっている 	・社交的才能	・よるこんで通心	
特殊な型 ・咬切り型 	・弱い意志 ・攻撃性の欠如	・決断力なし	・感情的気分から逃がれられない
	・意味が弱い ・組織化された非独立株		・現実感のせまき ・自己表現の才能の弱さ

事例 その1

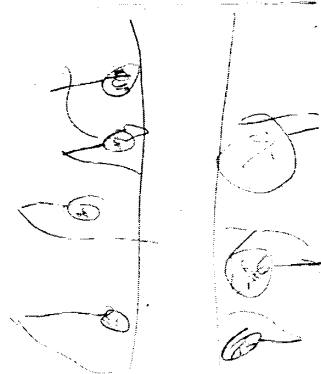
Y児の場合(男 1年 6才)

--- 行動の観察記録から ---

- ・常にじっとしていることができず、話しかけられたりしても自分勝手に歩きまわる。
- ・早口の上に発音がはっきりせず、何を言っているのか聞きとれない。
- ・学習中でも何かわけのわからぬことを言いながら手わるさをしているだけで学習に参加しない。
- ・人のものをすてたりかくしたりするが、やったことは認める。
- ・机の上、中、下などいつもちらかし放題で片付け方もよくできない。
- ・注意をされるとやめるが、すぐ同じことをやる。



(図1) 49.9.4



(図2) 50.2.6

分析の結果

根もと……勉強困難, 思考力の障害

樹 枝……自己中心的, 内向的

自意識の欠如

樹 幹……学童らしさ, わがまま

未分化

樹 枝……自我の弱さ, 知的性格のおくれ

短気, 行動的, 即行性, 衝動的

幼児性, 事実にもとづかないおしゃべり

考 察

(図1)では、枝は1本線の水平枝で根もとは広がりをもって紙の下までのびている。これは、知的にも性格的にもおくられていることを意味する。観察記録のところにも記したように、本児はほとん

ど学習には参加できない状態である。また分析結果に記された、行動的、衝動的、即時性、幼児性は本児の毎日の行動そのものである。(図2)では、根もとの広がりに変化していない。したがって、ひきつづき発達遅滞が認められる。また、幹に向く枝からは、性格特性として、自己中心的な面がうかがえ、ひとり遊びをしている時の本児の心がえがかれていると考えられる。(図1)から5か月たった(図2)の絵をかいたころは、いくらか行動にも落ちつきがみえ、教室からだまっていなくなるようなこともなくなり、学習中でも自分のすきなことをしてはいるが、自分の席に着いていられるようになってきた。言葉も何とかわかるようになり、友だちからは弟のような接し方を受けている。このように、クラスでの生活領域が広がったことは、(図2)の幹の太さが増したことでわかる。

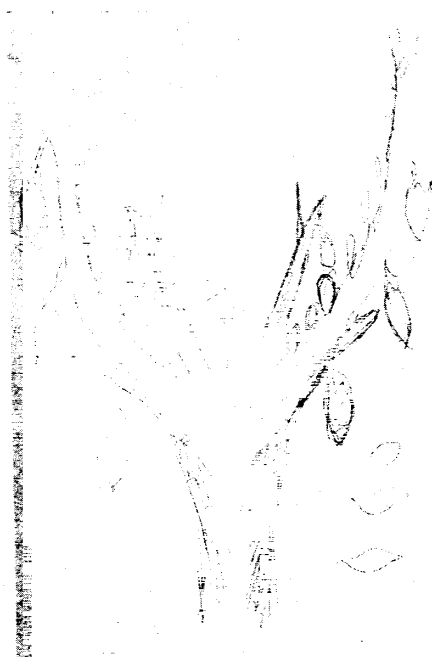
事例研究 その2

1 実施して気づいたこと

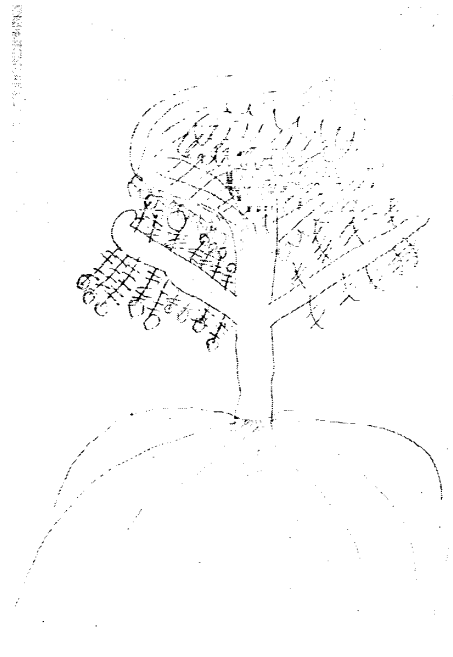
今までは主観だけにたよって理解していたが、baumテストを実施してみて子どもの内面を客観的に知ることができた。baumテストを通じて教師と子どもとのパイプの役割ができ、また母親と子どもとの心の交流に役立ち、また問題児の治療の変容の一面をうきぼりにしたり、さらに面接を深化発展させるきっかけとなり、その他問題点も多々あるようであるが、これらをふまえて効果的に用いるならば、多方面に活用することができる。

2 特に注目をひいた事例

① Y. Y君

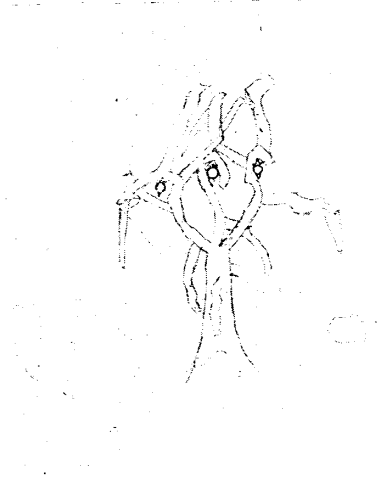
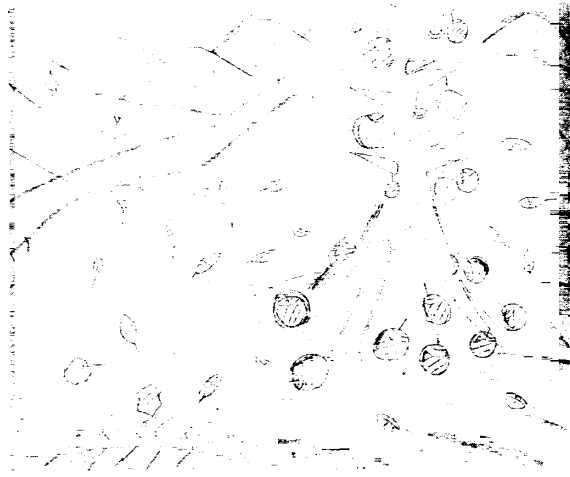


② T. A君



③ U. Kさん

④ M. S君



3 整理表から

① Y. Y君

② T. A君

5年組		男・女	氏名	Y. Y	S38年4月19日生 (11才)
分析項目	番号	性格特性	欲求・圧力	問題傾向	
N枝	6 上向きの枝	内省的 分離性 熱中 活動的	空想的	そう快性	
R実	1 実実の強調	強着 現実過大視	幻想 欲求	忍耐欠如	
Q業	2 落ちていく状態	自己表現容易 グレートな感情 忘却 散漫	才能をつくりだす 衝動	忘れっぽい	
S	2 全体的傾向 上向き	熱中 活動 興奮性		現実感欠如	
総合所見					
今後の方針留意点など					

5年組		男・女	氏名	T. A	S38年12月5日生 (11才)
分析項目	番号	性格特性	欲求・圧力	問題傾向	
A 空想的位置	3 真中	自己中心的 目を深い		内閉性	不安感
E供	2 供の強調	執着 無意識		現実把握	感情 不活発
F	5	実 願 家 認用(手先)		具体性	
H	6				
樹皮	空 白			空 虚	
K 樹皮部の形勢	2 裁型 球型	空想的 肉體的 観望主義 内憂		夢想 空虚	創造性 精力の欠如
N	2 同じ太さ平行	短気 行動的		即行性	衝動的
総合所見					
今後の方針留意点など					

③ U. Kさん

④ M. S君

5年組 男(女)		氏名	S39年3月23日生 (10)才		
分析項目		性格特性	欲求・圧力	問題傾向	
記号	番号				
A	1	外向的	知的満足欲抑制	適応困難	
F	5	実家器用(手先)	具体性		
Q	2	自己表現容易 デリケートな感情 忘却 敏感	才能をつくりだす 衝動	忘れっぽい	
R	3	デリケートな感受性 引込み思案 忘却 堅実性欠如	苦楚に耐えている 放棄 損失	集中力欠如 感じやすい	
T	2	むら気 沈思 自己 忘却 謙遜性 想像 力内 一貫性欠如	夢想的	精神不安定 現実感欠如	
樹木以外のもの					
総合所見					
今後の方針留意点など					

5年組 男(女)		氏名	S38年6月21日生 (11)才		
分析項目		性格特性	欲求・圧力	問題傾向	
記号	番号				
A	2	空間的 衝動的 能力を必死に	情緒不安定 退行 幻想	非協力的	
C	2	ひここ音楽家	強制色覚過敏	ひかえめ	
G	3	不明瞭な線		適応困難	
N	8	自信の思考 不安な態度 自信 強情 非社交的		情緒 強情	
N	25	親切な	望まれた傾向		
O	5	自己評価 自尊心 競争力の欠如		社会的	
O	4	おがまま 強情 身体手 疎らな	強い衝動	適応性欠如	
U	2	根もとより上	無 緊張	空 空	
総合所見					
今後の方針留意点など					

4 感想と考察

- ①YY君, 両親兄弟5人家族明るい家庭。特に母親ユーモアである。着実な学習ぶりで理解力, 判断力にすぐれ成績抜群である。友だちにも信頼されクラスをよくリードする。第3回目のバウムテスト実施時が2日後半であったY君は, 児童会会長にクラスより候補者として推選されている時であった。整理表にもあるとおり, 全部木が上向きの状態, 熱中, 興奮, 現実感欠如となっていた太い幹の両側に児童会長という字がうすく書かれ, 影にて消されているようになっている。2,3枚落ちて葉はデリケートな感情とあったので驚いた。
- ②TA君, 両親親祖父の5人家族, 父親スポーツマン, レコード鑑賞に興味がある。心臓疾患のある弱々しいT君もスキーはとてまじょうずにできるそうである。文字までふるえている。動作が不活発のため友だちとうまく遊べない。ほとんど話もすることなく自分から人に話しかけることはまずない。友だちがない(指導要録より), おどおどしていて仲間の中にはいらず用心深い。整理表より, 根の強調が強い。空間的位置では自己中心的, 注意深い, 内閉性, 不安感となっていること。T君に対しては安心感を与えるようにことばづかいや親切, 丁寧に接するように, また話を多くかけることにした。幼児が話すような話し方で友だちとけんかをするようになり, 相手をかじるとか反省会の時に聞かされた。
- ③UKさん, 両親兄9カ月の弟5人家族, 頭脳明敏, 長文の読解力があり特にすぐれた感想文や作文はよいものを書く。人をきずつけることを平気でいう。またへりくつが多く自分の非を率直に認めない, そればかりか責任を転嫁する。(指導要録より)負けずぎらい。整理表より風景を入れた, 葉がたくさん落ちている。空間的位置では外向的, 知的満足欲, 抑制, 適応困難となっている。また幹を黒くぬってある等うなずけるところがあった。弟が誕生してよりおねえさんらしく落ち着いた感じ

になった。弟の話の時々してはほほえみを見せてくれる。大へんかわいがり会話も多くなった。弟を大事にしてあげることにより友だちと接する気持ちも少しずつ変容していくようである。

④MS君 両親弟の4大家族。母親きびしくヒステリック。友だちにけがをさせた時などピンタをくれるとか、テストの点にもうるさく、よい点をとるとお金を与える。NS君は理解力があり、成績抜群であるが友だちは少ない。自分で交わろうとしない。好かれない。神経性下痢をおこしたり朝から理由もなく気持ち悪がったり、あげたりするがその後はケロリとする。整理表より、前面につき出した枝は非社会的、枝の切断は抑制、禁止された傾向。逆方向な枝は身勝手、激しい衝動、適応性欠如となっていた。いざとなるといっしょうけんめいによくやるので、自分の気持ちをすなおに表現できるようつとめさせる。学級の仕事など進んでやるような様子が少しずつあらわれていくようだ。

付 記

<性格や能力に関する問題>

- 1 おちつきがなく、すわっていても始終からだが動いている。しずはガタガタ私語が多くて困る。話のきき方もできていない。
- 2 めい想の時間20秒としてじっとしてられない。
- 3 持続性がない。
- 4 落ち着きがなく衝動的な子ども
- 5 自分勝手に集団のきまりが守れない。1時間のうち、だまってふらふらと2~3回は便所へ行く。教師の指示が理解できない。
- 6 わがままで、悪口や自分の不利なことがあると強く相手を攻撃する。
- 7 自分の気に入らない事があると、すぐ腹をたてて、自分勝手な行動をとる。
- 8 積極的でよいがなんでもやりたがる子(係や当番がいるのにやらせないと不満でもんくを言う)
- 9 集団行動がとれない。授業中外出し、呼んでも入ってこない。
- 10 おしゃべりはするが肝心な話し合いの場では何も話せず小さくなっている。
- 11 先生のことをじろじろ見ている、何も話さずかげでいたずらする。
- 12 うそつきで乱暴するので友だちがこわがる。
- 13 かげひなたのある行動をとる。
- 14 つみの意識のうすい子
- 15 能力のある子が先へ先へと進みたがり、何かにつけて目立とうとする。
- 16 人の話が聞いていられず、すぐ人の話をとってしまう。
- 17 バカ〇〇と言われている。保育園からの延長のようで、知能も遅れているようだ。
- 18 何をやるにも自信がなく、友だちがやるのを見ていて学習や作業がおそくなる。
- 19 だまっている子、気の強い子
- 20 おどおどして、はきはきしない子
- 21 遊びの時など、ひとりぼっちでみんなの中に入っていけない子
- 22 感情を表面に出さない子、自分の心の中を素直にあらわさない子
- 23 友だちになじめず、ひとりぼつんとして話しかけると顔をふせてしまう子
- 24 ひとのものをだまって借りて、そのまま返そうとしない子

- 25 ほしくなると他人のものでも無理にとってしまう子
 26 性的関心の強い子, おとなのことはなんでも知っているとおもっている。

<生活行動に関する問題>

- 1 学習中に先生の話や友だちの話を聞こうとしない。
- 2 給食当番児の中で, 班長の「早くならんでください」との声をきいてもならぼうとしないで遊んでいる。
- 3 室内で安全帽を平気でかぶってとらない。(6年)
- 4 約束が守れない。
- 5 きまりが守れない。
- 6 口ごたえをする児童が多い。それだけに問題をもっているものもいるが, 故意にへりくつを言う。(3年)
- 7 毎日といってよいほど学習用具を忘れてくる子(連絡帳で親に手紙をかいてもだめ)(2年)
- 8 忘れものが多い。
- 9 忘れ物が多く, 注意しても直らない。また忘れものをした罰としての漢字の書き取り練習さえもやっこない。しかるばかりが能ではないことは承知しているのだが「きまり」を守らないので, ついしかってしまう。(4年)
- 10 物の扱いが乱暴で, 特に公共物に対する愛護心に欠けている。いたずらしてこわしても告げに来ない。(4年)
- 11 清掃作業のときは, やるふりだけで遊んでいる。(4年)
- 12 「うそをついてまでさぼる」具合が悪いので医者へ行くといって早退し, 家でゴロ寝していた。ねんざらしいというのに夜, 柔道の練習に行く。
日常生活では腕力にものをいわせて, いわゆるのさばっている。学力は劣っていないが, 学習に興味をもてずだらだらしている。マンガや週間誌をいつも持ち歩いている。(6年)
- 13 1年生で集団生活になじめないせいもあるが, 始業の合図があっても教室にはいらぬようなこと, 授業中も自分勝手なことをしている。
- 14 落とし物をして探そうとしないし, 取りにも来ようとする子
- 15 ことば使いが荒く, そのための口げんかが多い。(3年)
- 16 おとし物が多く, 室内がちらかっても拾ってきれいにしようとする意識がない。(6年)
- 17 行動全般が衝動的, 学習も気があるのだが意欲が持続しない。約束事も破りがちで, 何かの問題を起こすと必ずこの子がいっている。(盗み等はない) (6年)
- 18 公共物の取り扱いが乱暴, あとしまつができない。
- 19 仕事や学習が10分ぐらいの短時間でもだまってできないで, 遊び遊び(おしゃべり)やる子
- 20 一般的な傾向だと思うが, 学校で習う歌はほとんど歌わず, テレビ, ラジオ等で覚えたものばかりを歌っている。(例 女のみち, 女の操) (6年)
- 21 「先生に同じものを要求する」
例 給食の時, 指導のために出歩くと, 先生も出歩いているのに……先生 そうしないの? 学力あり, 成績優秀。理屈で親もやりこめているらしい。(6年)
- 22 自分のいい分ばかりいって, 他人の話が聞けない子ども。
- 23 室内では全然落ちつかない。手わずらやわきみばかりしている。(4年)
- 24 ところ, 場面をかまわず出歩いたり勝手なことをしゃべったり, 気はいいのだが, 集団の気が害されて困る。(3年)

- 25 時と場所をかまわず大声をはりあげる。落ちつかず席を出歩いたり周囲の子をはいたりする。静かにしている時は、ゆびしゃぶりをしている。(1年)
- 26 理解と実践とに大きなズレがある。
- 27 ほとんど席についていられず出歩いている。歌を歌うときは大声でかえ歌を歌ったり、わざとずれて歌ったりする。(1年)
- 28 集団にとけこんで生活ができない。特に学習時の文字や数字をかくことをいやがる。友だちがいやがる。スカートめくり、けしゴムをなげるなどのことをやる。(2年)
- 29 むだなおしゃべりが多い。
(学校全体としても、業間体操のぼあい。体育館の集合がひどい)
- 30 室内や廊下を常に走っている子。(指名されて黒板に書くときも走ってくる)(2年)
- 31 給食時(配膳前)に、教室にいないでふらふら遊んでいるものがある。(6年)
- 32 身のまわりの整理整頓ができない子。(2年)
- 33 口ではりっぱなことを言うが、実際には行動がともなわない子。(4年)
- 34 行動が粗雑。自分は勝手な行動をとるわりに、他人に対してはきびしく批判する。大きな声を出して目立とうとする。(6年)
- 35 始業時のベルを聞いてからの着席のしかたが、みんなそろそろまで、かなりの時間を要する。(6年)
- 36 入学したばかりだというのに、いつも手、足、顔、衣服がきたない。(1年)
- 37 全体の傾向として、給食中(ときには学習中)廊下歩行中など大声を出したり走ったりする子がいる。(悪意はないのだが)(3年)
- 38 弱いものいじめをしていながら、やってしまったことを正直にいわない。(4年)
- 39 返事ができない。(4年)
- 40 時刻や時間を守らない。(学校の日課表にも問題あり)(4年)
- 41 他人のことを“ばか”という子。(2年)
- 42 他人の失敗をやじる。そういう態度を注意されるとふてくされる。給食時だと吐く。(6年)
- 43 話し方ができない。(お願いするとき、目上の人に対するときなど)
- 44 食事のマナーが悪い。

※ 同じような内容のものはまとめて記録しましたので、実際の問題数(51)より項目が少なくなっています。

評

児童指導における児童理解の重要性は、いまさら述べるまでもなく周知のことである。しかし、周知され強調されているにもかかわらず、児童のもつ多面性、多様性の結果、的確な児童理解に到達することは難しいこととされていた。一般に実施されている諸調査、諸検査は概して児童の内省力を信頼し設問されているので、幼児や低学年児童においては、その内省力に問題があり、教師の観察が主な方法とならざるを得なかった。しかし、教師の観察等ではその理解に限界があり、的確な理解のための方法が待たれていたのが実状である。三重小ではこの点に着目され、baumテストという投影法を研究し、一步でも的確な児童理解に近づこうと試みたことは価値あることと敬意を表したい。ことにbaumテストを教師の観察眼の正確さを期するための一助として位置づけたことは正しい姿勢である。このテストの活用によって1人でも多くの児童の育成が図られることを希望したい。